

學術談話會技藝科部會報 第九號

目次

講演

澤村博士講演

研究

防水布について

技四 山口 さん

進藤 ひさよ

安在 徳野

神保 ムメ

元祿時代の繪畫に現はれたる婦人の衣服の模様(挿畫十一種)

技二、三 佐藤 ふじ

原田 ゑい

家一、二 吉岡 香

鈴木 浪

糊に就て

栗山つる
五味さく
犬飼小春

雜 錄

中等學校の家事について

倉橋先生の御話

草 莓

同料理法

會 報

第三十回學術談話會技藝科部記事 ● 本年度役員の變動 ● 本年度新入會員 ● 會費領收報告

● 會計報告

學術談話會技藝科部會報 第九號

澤村博士講演

お話の題に就いて考へましたが食物に關することが適當であらうと思ひますので此題を選びました。

御承知の通り「命は食にあり」と云ひますが人が生くるには必食物を攝らねばならぬ食物は生活の本なれば衛生上重要である事は云ふ迄もないが又經濟上の關係からも食物は重大なる事柄である吾人が生活するには生活費を要するが其の内食物に就いて如何程費されて居るか云ふ事は我國では未だ精密なる調査がない。歐米の調査によるとそれは非常な大きい割合になつて居る。米國は歐洲に比して比較的國が新しいから食物が豊かで廉價である。其の調査によれば食物は總支出の五乃至六割である。獨乙は古き國であるから人口も稠密で食物の價も高い従つて勞働者のそれに對する支出は五割七分乃至六割に達して居る日本でもおそろく獨乙に近くなつて居るであらう。豊かに生活する者に就いては大したものではないが勞働者並びに中流者の生活に於ては此れを節約する事が出來れば其生計は非常に容易くなる、であるから此問題は一家の經濟からも亦一國の經濟からも大切な事柄である。日本の人口は年々一・一%宛増す即千人に就いて十一人増